



# 東吾妻町アクションプログラムについて

東吾妻町 建設課

## ■ 「ぐんま“まちづくり”ビジョン」と「アクションプログラム」について

「ぐんま“まちづくり”ビジョン」は、人口減少と高齢化が同時に進行する局面で、持続可能なまちづくりの実現に向け、市町村に今後のまちづくりを考えていただくことを目的に、現状や課題、今後生じる望ましくない状況を整理し、今後のまちづくりを進めるための方向性や、今後検討しなくてはならない項目を示したものになります。また、ビジョンや市町村が策定する「都市計画マスタープラン」等を踏まえ、人口減少・高齢化社会における市町村が抱える課題を解決し、「望ましい将来像」を達成するために必要な取組施策をとりまとめた実行計画が「アクションプログラム」になります。

現在、本町で策定している「東吾妻町アクションプログラム」のワークショップの状況をご紹介します。

## ■ 東吾妻町のまちづくりと課題

東吾妻町は、平成18年3月に旧吾妻町と旧東村が合併し、誕生しました。四方には高崎市、渋川市、中之条町、長野原町と接しており、町の真ん中には一級河川である吾妻川が流れています。米や菊、こんにゃく芋、豚、鶏卵などの農作物の生産が盛んであり、町の産業を担っています。しかし、少子高齢化や人口流出等により、農業の担い手が減少しており、農家の後継者不足や高齢化など大きな課題が生じています。

また、平成6年12月に、地域高規格道路「上信自動車道」の路線決定が行われ、現在、事業が進んでいます。おおよそ令和9年に当町分の路線は完成し、開通となる予定ですが、開通に伴い、通過交通の増加が危惧されており、いかに町に寄ってもらえるようにするかが今後の課題です。

平成31年1月、城の形をした旧岩櫃城温泉センターを改修し、役場新庁舎として移転をしました。住民の皆様は東吾妻町に誇りを持って暮らしてもらえるよう努めています。また、旧役場庁舎解体後、跡地の利活用を模索しています。住民主体の施設や町外の方も使用できるような施設など様々な案は出ておりますが、決定までは至っておりません。いずれにせよ住民の方に愛着を持って使用してもらえる施設となるよう、慎重に決めていかなくてはなりません。

東吾妻町では、平成31年3月に「都市計画マスタープラン」を新規策定し、都市計画の基本的な方針を定めました。町を5つの地区に分け、今後の少子高齢化・人口減少社会においてどのようにまちづくりを行うか、行政サービスを維持するためにはどのようにしていかなくてはならないのかを位置付けました。

少子高齢化や人口減少、上信自動車道による人の流れの変化など大きな課題と直面し、まちづくりの方法を見直す必要が出てきたことから、マスタープランの実現化の方策として、「東吾妻町アクションプログラム」の策定に着手しました。

## ■ 東吾妻町アクションプログラムワークショップについて

策定にあたっては、町の現状把握、問題点や課題の共有を行い、それを系統立てて認識するため、県と町の関係職員計19名を3班に分け、ワークショップを開催しました。委員構成としては、主事・主任クラスの比較的若い職員を中心に委員とすることで、柔軟で多様な意見を出し合えるようにしました。ワークショップは計3回行うこととし、現在までに2回ワークショップを行いました。

1回目のワークショップでは、現地調査を行い、まちの現状把握及び問題点や課題の共有を行いました。東吾妻町に関わりのある方、東吾妻町に初めて来た方など様々な目線からまちの現状や問題点を観てもらいました。その後、現地調査で感じたことをもとに現状の問題点や今後発生しうる問題を出し合い、問題点系統図を作成しました。問題点を見てみると、普段住んでいて感じている問題はもちろん、普段感じていない外から見た町の問題など



現地調査の様子



様々な意見が出ました。2回目のワークショップでは、作成した問題点系統図を踏まえ機能系統図をまとめることで、出し合った課題や問題点を解決するために、なにが必要なのか、どうすれば解決できるのかを明確化しました。そして、その必要な機能をどのような施策で実現していくのかアイデア出しを行いました。実現できるかどうかは考えず、思いついた意見を出し合うことで、夢のある柔軟なアイデアが数多く出ました。



ワークショップの様子

## ■ ワークショップから見てきたこと

ワークショップを行い、問題点系統図と機能系統図の作成を行いました。そこで見てきた東吾妻町の課題として、「空き家・空き店舗が多く、町に活気がない」「高齢者が多く、若者が少ない」「人口の流出が多い」等の人口減少が原因となる問題が多く挙がりました。当町の人口は、現在13,000人程度で推移しており、合併後の平成18年と比べると3,000人程度減少しています。東吾妻町としても現在の状況に危機感を持っており、第2次総合計画の中でも人口の将来展望としまして、2040年における人口1万人の維持を目指しています。



各班発表の様子

問題の解決策となる機能としては、「移住・定住を増やす」「住民の観光意識を高める」「地域のコミュニティを高め、自助共助のまちづくりを行う」等の機能が挙げられました。移住・定住につきましては、他県での移住相談会の開催や移住者・定住者に対して住宅取得に係る費用の一部補助などを行っております。数多くの方に利用していただいておりますので、今後も事業を継続し、補助の拡充についても検討する必要があると感じました。地域コミュニティの向上や自助共助のまちづくりにつきましては、地域・地区のつながりが希薄になりつつある昨今の状況を踏まえ、行政主体のまちづくりではなく、住民主体のまちづくりを行い、それに対し、行政が補助や助言を行う必要があると感じました。行政主体では、住民は当事者意識を持たず、受け身になってしまい、それが結果として、地域コミュニティの低下になると考えます。そのため、行政と住民が協力し、まちづくりを行うことで、住民にとって暮らしやすいまちになると考えています。

## ■ 写真で見る東吾妻町トピックス



再開発を検討している  
JR群馬原町駅南側



解体作業が進む役場旧庁舎跡地



区画整理を行ったJR群馬原町駅北側



建設作業が進む上信自動車道  
吾妻西バイパス工事風景



供用開始となった上信自動車道  
祖母島～箱島バイパス



八ツ場ダム(下流側より)

